

No. 1263

岬の春

— 愛知・伊良湖 —

4月に入って各地はもう、春の訪れ、愛知県・伊良湖岬では春の花の出荷も終り、海辺ではサーフィンを楽しむ元気な若者たちの姿もみられる。灯台のむこうで往きかう船も春霞にけぶる。寄せては引き、引いては寄せる白い波にも、冬の厳しさはない。ほほをなでる風も、もう春の香、春は日一日とゆっくりやってくる。

古代に遊ぶ

— 栃木・那須 —

ようやく、春を迎えた栃木県那須高原。この地に毎年、都会の子供たちを連れてやってくる人がいる。自然と親しむ少年の村「やわらぎの里」の責任者、堤和男さん（50才）だ。今年もまた多勢の子供たちをつれてやってきた。今回は大自然の中で古代のたて穴式住居を復元しながらキャンプを楽しむのが目的。都会の子供たちは自然の中で古代の創造に挑戦した。はじめは馴れない作業にためらいがちだった子供たちも徐々に出来上がって行く住居に興味を持ちはじめた。ボランティアの協力を得ながらやっと一日かかって骨組が出来上がった。夜は先生を囲んで古代の生活についての勉強会が開れた。質問まで飛びだし遅くまで話が続けられた。いよいよ屋根をふく作業だ、これが一番大変な仕事だ。子供たちは古代の生活をそれぞれに思い浮かべながら一生懸命作業を続けた。やがて国学院大学の青木先生の指導で古代たて穴式住居はでき上がった。住居の中で火をたいて子供たちは、しばし古代に夢を走らせた。子供たちは「たのしかった。古代の人の頭の良さに感心させられた。」等々と語る自分たちの手で造った古代たて穴式住居。子供たちにとって貴重な体験になったことだろう。